2026 年 11 月 2 日
株式会社リコー
川崎重工業株式会社

リコーと川崎重工、AI で設計業務の知識資産活用を推進する戦略的パートナーシップを構築

～高度な技術文書や暗黙知の活用を通じ、技術者が創造的業務に集中できる環境の実現を目指す～

株式会社リコー（社長執行役員：大山　晃、以下「リコー」）と川崎重工業株式会社（代表取締役社長執行役員：橋本　康彦、以下「川崎重工」）は、AI による設計業務の知識資産活用を推進する戦略的パートナーシップを構築しました。

本パートナーシップでは、リコーの AI 技術の活用によって、設計文書や図面など設計業務における高度な知識資産と、熟練技術者が持つ経験・判断・ノウハウなどの暗黙知を横断的に理解・整理し、活用する方法を検証します。これにより、設計ノウハウの継承と生産性向上を促進し、技術者がより創造的な業務に集中できる環境の実現を目指します。

1. 本パートナーシップの背景

製造業では、設計ノウハウや技術文書などの知識資産が企業競争力の源泉となる一方、企業に蓄積された膨大な設計文書や図面などに含まれる知識を十分に活用できていないことや、熟練技術者のノウハウが属人化していることが課題となっています。人手不足や熟練技術者の退職が進むなか、技術やノウハウを組織全体で継承・活用する仕組みづくりの重要性が一層高まっています。こうした課題を踏まえ、企業内の知識資産を AI で活用する技術を持つリコーと、幅広い製造分野で高度な設計・技術の知見を蓄積してきた川崎重工は、両社の強みを掛け合わせ、設計業務における知識資産活用の高度化に取り組みます。

2. 本パートナーシップにおける取り組み

航空機やロボットなど複雑な製品を手がける川崎重工の設計・技術領域において、リコーの AI 技術や知見と、川崎重工のユースケース、業務データ、技術文書などの知識資産を掛け合わせ、実際の業務環境に即した検証を行います。

具体的には、企業内のドキュメントの読解に強みを持つリコーの LLM（大規模言語モデル）／LMM（大規模マルチモーダルモデル）（※1）を川崎重工のオンプレミス環境に導入し、設計文書や図面などに蓄積された知識の活用を進めます。さらに、熟練技術者の経験やノウハウ、判断基準などの暗黙知を AI で整理・可視化し、組織内で継承・活用する方法を検証します。これにより、属人化しがちな設計ノウハウの継承と活用を促進し、設計者がより創造的な業務に集中できる環

境の実現を目指します。

3. 両社の役割

リコーは、機密性の高い設計データや図面情報を企業内で安全に活用できる、オンプレミス対応のマルチモーダル LLM を強みとしています。2025 年 12 月には、企業内に蓄積された文書、図面、報告書などの知識資産や非構造化データを AI で利活用する企業向け AI プラットフォーム「Hi.DEEN(ヒデン)」(※2)を発表しました。本パートナーシップでは、オンプレミス環境で利用可能な LLM／LMM を活用した生成 AI 基盤と、AI 導入・活用の技術や知見を提供します。

川崎重工は、鉄道車両や船舶、航空機、ロボットなどの製品開発で蓄積してきた設計・技術領域の知見に加え、図面や表・グラフなどを含む高度な技術文書、業務データおよび実証環境を提供します。

4. 今後に向けて

今後両社は、本取り組みを通じて、知識資産の有効活用による設計業務の高度化を軸に、製造業の業務変革に資する AI 活用の知見を蓄積します。得られた知見やユースケースの展開を通じて、生産性向上と技術継承の両立を図り、日本の製造業が抱える共通課題の解決に貢献していきます。



※この画像は生成 AI を活用したイメージです。

株式会社リコー コーポレート上席執行役員 Chief Strategy Officer 入佐 孝宏は、次のように述べています。

「先人たちが培ってきた技術やノウハウを次世代へつなぎ、その知見を組織全体の力へと変えていくことは、日本の製造業に共通する重要な課題です。本パートナーシップでは、AI を活用して知識資産や暗黙知の継承・活用を支援するとともに、技術者の皆様が繰り返し作業から解放され、創造性を発揮し、新たな価値を生み出す活動により多くの時間を充てられるようご支援してまいります。」

川崎重工業株式会社 常務執行役員 技術開発本部長 川﨑 卓巳は、次のように述べています。

「川崎重工には、長年にわたる多様な製品開発を通じて蓄積してきた、技術文書や図面、設計・製造ノウハウなどの貴重な知識資産があります。これらにリコーの AI 技術を掛け合わせ、個々の技術者が持つ知見も含めて組織の力として活用することで、設計の品質と生産性を高めていきます。AI に設計を任せるのではなく、AI を使いこなすことで技術者の思考と判断力を拡張し、より良い製品

を、より早く生み出せる設計プロセスの実現を目指します。本パートナーシップを通じて得られた成果を当社の幅広い事業へ展開するとともに、日本の製造業が抱える技術継承や人手不足などの課題解決にも貢献してまいります。」



左から、株式会社リコー コーポレート上席執行役員 Chief Strategy Officer 入佐 孝宏、
川崎重工業株式会社 常務執行役員 技術開発本部長 川﨑 卓巳

(※1)LLM(大規模言語モデル)／LMM(大規模マルチモーダルモデル)
Large Language Model(大規模言語モデル):人間が話したり書いたりする言葉(自然言語)の文脈を捉え、質問への回答や要約などを行うAI技術。
Large Multimodal Model(大規模マルチモーダルモデル):テキスト・画像・音声・動画など複数の形式のデータを一度に処理できるAI技術。

(※2)Hi.DEEN
企業に蓄積されたドキュメントやデータに含まれる知識を理解・活用し、自律的な判断と業務実行を実現するリコー独自のAI技術基盤。

| リコーグループについて |

リコーグループは、世界約200の国・地域で、AIをはじめとする先進テクノロジーと、長年培ってきたプリンティング領域の強みを基盤に、ワークプレイスにおける業務変革を支援するサービス・ソリューションを提供しています。
また、商用・産業印刷事業や、インクジェット技術を応用した新たなソリューションの展開を通じて、お客様の価値創出を支えています(2026年3月期グループ連結売上高2兆6,083億円)。

“はたらく”に歓びを　創業以来 90 年にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

| 川崎重工グループについて |

川崎重工グループは、140 年以上の歴史を有する総合エンジニアリングメーカーです。陸・海・空の輸送システムやエネルギー、ロボットなど多彩な事業をグローバルに展開し、高度な技術力を活かした製品・ソリューションを提供しています。

グループビジョン 2030「つぎの社会へ、信頼のこたえを　～Trustworthy Solutions for the Future～」のもと、多様な技術とエンジニアリング力を結集し、社会課題の解決と新たな価値の創出に取り組んでいます。